

はじめに

群馬県は、海拔13mの低地から2,500mを超える高山まで変化に富んだ地形を有し、また、尾瀬などの湿原や湖沼、流域面積日本一を誇る利根川をはじめとした豊富な水資源に恵まれるなど、良好な環境に育まれて多種多様な生態系が形成されてきました。

しかし、産業や経済の発達は人間の生活環境に変化をもたらし、自然環境にも大きな影響を与えました。本県においても、開発や乱獲による種の減少・絶滅、里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化、近年では、外来生物の侵入やシカの食害などによる生態系の攪乱といった問題も発生しています。

このような状況において、県では、2014年に「群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例」を制定し、希少野生動植物種の保護対策に取り組むとともに、2017年には「生物多様性ぐんま戦略」を策定し、生物多様性を保全しつつ、県民の理解を深めて持続可能な形での利用を進めるための取組を行っています。また、2022年5月には、より現況に即した希少野生動植物種の保護対策を図るため、新たな情報や知見を反映した「レッドデータブック2022年改訂版」を発刊しました。

「良好な自然環境を有する地域学術調査」は、これまで受け継がれてきた自然環境を良好な状態で残し、後の世代に伝えるための施策の一つとして、地形・地質、植物、動物の学識経験者で構成される「群馬県自然環境調査研究会」への委託により実施しており、40年以上の間本県の自然環境の実態解明を続けてきました。

本書は、2021年度に実施した調査結果を取りまとめた報告書であり、群馬県自然環境保全地域である「鈴ヶ岳」、浅間山の火山活動による自然改変や、登山者の増加による自然環境への影響が懸念される「籠ノ登山（東・西）、水ノ塔山及び浅間山外輪山」など全8地域の調査結果を掲載しています。

この調査結果が、希少野生動植物種の保護対策のための基礎資料として、行政機関のみならず、県民の皆様に広く活用されることで、本県の自然環境保全の一助となれば幸いです。

最後に、調査・執筆にあられた群馬県自然環境調査研究会の皆様には深く感謝申し上げますとともに、調査の援助をいただきましたサポート隊の皆様をはじめ、御協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

2022年9月

群馬県環境森林部自然環境課長

目 次

1	大間々扇状地の扇端湧水（補完調査）	1
2	板鼻層の最上部凝灰岩層	11
3	籠ノ登山（東西）、水ノ塔山及び浅間外輪山の植物〔1年目〕	27
4	根本沢県自然環境保全地域（補完調査）	45
5	鈴ヶ岳県自然環境保全地域	75
6	白砂山・上ノ倉山周辺（ぐんま県境トレイル、野反湖～三坂峠） 〔2年目の予備調査〕	109
7	希少動物モニタリング	119
8	シカの生息状況が哺乳類相に与える影響調査（4年目）	123